

国産濃厚飼料の生産利用推進

- 国産濃厚飼料の生産への取組として、平成20年頃から北海道でイアコーンサイレージ※の生産を開始。
- 水田や畑における輪作体系に子実用とうもろこしを取り入れることにより、
 - ①排水性の改善、②緑肥による地力改善、③連作障害の回避が可能。
- 飼料用米等と比べ単位面積当たりの労働時間が少なく、労働生産性が高いが、普及を図っていく上では、生産コストの低減や専用収穫機の導入、安定した供給体制の構築(需要者とのマッチング、保管施設の確保)が必要。
- 収穫専用機械の導入やモデル実証の取組への支援により、国産濃厚飼料の生産・利用拡大を推進。

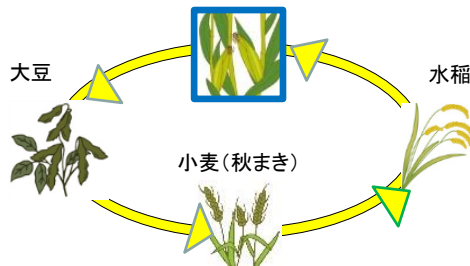
※イアコーンのイアー(ear)とは、とうもろこしの雌穂(子実・芯・外皮)の部分を目指す。

【30年度】飼料増産総合対策のうち国産濃厚飼料生産利用推進

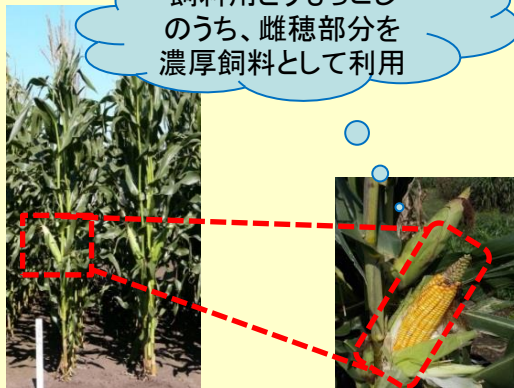
- ・ 国産濃厚飼料の低コスト栽培技術等の全国的な普及推進。(補助率:定額)
- ・ 重点地区における国産濃厚飼料生産・利用体系の構築
技術実証、実需者とのマッチング等に係る経費を支援。(補助率:定額)
- ・ 収穫専用機械、調製・保管に係る整備等を支援。(補助率:1/2以内)

子実用とうもろこしを組み合わせた
輪作体系の一例

子実用とうもろこし



飼料用とうもろこし
のうち、雌穂部分を
濃厚飼料として利用



国産濃厚飼料(H29作付面積:550ha(推計))

子実用とうもろこし

とうもろこしの子実のみを収穫・乾燥した飼料

→ **牛・豚・鶏に給与可能**



コンバインによる収穫



イアコーンサイレージ

とうもろこしの実を外皮ごと収穫し、子実・芯・外皮を
サイレージ化した飼料

→ **牛・豚に給与可能**



ハーベスターによる収穫
(専用ヘッド着用)



ロールペラーによる梱包・保存

